社会学科代表卒業論文発表会

3分野3作品を紹介

人間科学部社会学科の代表卒業論文発表会が1月30日、生田キャンパスで開かれた。1年次生を中心に約200人が先輩の発表を熱心に聞いた。

代表論文は同学科14ゼミの4年次生の卒業論文を指導教員が審査し三つの分野①「文化・システム系」②「生活・福祉系」③「地域・エリアスタディーズ系」から次の3作品を選んだ。織口葉菜子さん「テレビCMにおける女性の身体像―広告表現が作り出す〝スリムな身体〟という規範」（後藤吉彦ゼミ）▽長谷川奈々さん「フィリピン人の笑顔と日本人」（永野由紀子ゼミ）▽米田みのりさん「ヘイトスピーチと街空間　横浜中華街／新大久保コリアンタウン／池袋チャイナタウン」（広田康生ゼミ）。

フィリピンと日本の幸福感の差について発表した長谷川さん

織口さんは過度なダイエットによって、若い女性の健康が損なわれている実態に着目し、テレビCMにおける影響を考察するとともに、1980年代から2010年代の各年代の社会背景、風潮と合わせ、スリム志向が形成されてきたことを明らかにした。最近の傾向としては、ファッションアイコンとして人気が高い、お笑いタレント渡辺直美さんの登場で、女性の意識の変化が見てとれる。「スリム＝美しいという社会全体の固定観念に疑問をもつことが大切だ」と結んだ。

長谷川さんは父親の仕事の関係で1年ほどフィリピンに住んでいた経験があり、経済的に貧しいが日本人よりも幸福感が高いのでは…という思いから、その背景を考察した。家族関係、女性の社会的地位、出稼ぎ労働などに焦点をあて、さらにフィリピンに滞在経験のある3人の日本人へのインタビューから、日本との違いを明らかにしている。女性が生き生きと働いていること、出稼ぎで家族と会えないことが逆に絆を強めているとし、「日本人は、なんでも手に入る便利な生活を一度手離すことも必要ではないか」と語った。

当日欠席の米田さんの論文の要旨を司会者が紹介した。ヘイトスピーチの発生要因を横浜中華街、新大久保コリアンタウン、池袋チャイナタウンの三つの街の歴史、地理的要因、文化的特性から分析し、街の持つ多様性、コミュニティーの大切さを解き明かした。

司会進行は博士後期課程の金思穎さんが担当。それぞれの発表に対し王皓さん（修1）、侯澄さん（修1）、本橋伸彦さん（修1）が講評した。

卒業発表に笑顔咲く

2017年度の卒業発表が2月23日、神田・生田両キャンパスで行われた。

生田キャンパスでは雨の中、午前10時に卒業者名簿が張り出されると、集まった多くの4年次生が自分の学籍番号を確認した＝写真。永沼瑞穂さん（ネット情報、川島学術賞受賞で2面に経歴）は「大丈夫だと思っていたけれど、大学入試の合格発表並みに緊張した。無事卒業が決まりうれしい。駆け抜けた、充実の4年間でした」と笑顔を咲かせた。

3年次に高野祐一プロジェクトで、データ解析コンペティション技能賞を受賞したことが一番の思い出。専門分野への興味が広がり、他大学院に進んで研究を進める。

倉石悠資さん（経営）は齋藤憲ゼミの仲間とともに卒業を確認し喜びのジャンプ。「楽しい大学生活を送れました」。卒業後は長野県警に奉職する。「大学での学びを生かし、県民の安全を守りたい」と抱負を語った。

神田キャンパスでは法学部と二部の卒業発表が行われた。

卒業年次留学生 壮行昼食会開く

卒業する留学生の門出を祝福する壮行昼食会が1月11日、生田キャンパスで開かれ、和やかに思い出を語り合った。

中国、韓国、マレーシアからの学部生・大学院生ら卒業年次留学生12人のほか、教職員や中国人留学生会と国際交流会SHIPのメンバー多数が参加＝写真。佐々木重人学長、高橋裕国際交流センター長らが今後の活躍を期待するあいさつをした。

中国の鮑辰さん（人間科学4）は国際交流センター主催の「留学生によるアジア理解講座」で中国語講師を務めた経験がある。「専大生は勉強熱心で、教えることによってこちらが教えられた。卒業後は日本で就職をするが、専大で学んだことを生かし、国際交流に努めたい」と語った。

経済学研究科優秀論文発表会

2人が研究成果を報告

大学院経済学研究科修士課程の優秀論文発表会が3月10日、神田キャンパスで行われた。本年度提出された修士論文の中で優れているとして、笠井孝志さん、郡司あゆみさんの2人が発表した。

笠井さんの題目は「電力小売自由化の経済効果」（指導教授・田中隆之）。2016年に始まった電力小売事業の全面自由化について利用者メリットを推計。自由化が行われなかった場合と比較して大きなメリットがあったとの研究結果をまとめた。

郡司さんは「地方税法における固定資産税の研究―土地課税を中心に―」（指導教授・星野泉）。宅地の評価については地価公示価格などの7割をめどにする「7割評価制度」が導入されているが、実態はどうか、全国の自治体のデータを詳細に分析した。

発表を聞いた教員や大学院生から「これからも研究を深めてほしい」と激励の声が寄せられた。

研究結果を発表する笠井さん

土地課税について検証した郡司さん

2017年度　学部卒業者数

学部	学科・専攻	一部	二部	計
経済	経済	518	80	805
	国際経済	207	—	
法	法律	632	80	865
	政治	153	—	
経営	経営	549	—	549
商	マーケティング	508	75	791
	会計	208	—	
文	日本語	74	—	697
	日本文学文化	122	—	
	英語英米文	140	—	
	人文歴史学	0	—	
	哲	67	—	
	歴史	124	—	
	環境地理	51	—	
	人文・ジャーナリズム	119	—	
ネットワーク情報	ネットワーク情報	240	—	240
人間科	心理	68	—	205
	社会	137	—	
合計		3,917	235	4,152

※学期末卒業者を含みます。

2017年度　大学院修了者数

研究科	専攻	コース	修士課程	博士後期課程	計
経済学	経済学	社会経済	1	1	10
		国際経済	0		
		プロフェッショナル	5		
		エコノミックリサーチ	3		
法学	民事法学		—	1	7
	公法学		—	0	
	法学		6	—	
文学	日本語日本文学		4	0	38
	英語英米文学		3	1	
	哲学		4	0	
	歴史学		8	1	
	地理学		0	0	
	社会学		2	1	
	心理学		14	0	
経営学	経営学	経営学	13	0	13
		情報管理	0	0	
商学	商学	アカデミック	0	1	15
		ビジネス	3		
	会計学	アカデミック	3	0	
		プロフェッショナル	8		
合計			77	6	83

※特例措置修了者を含みます。
※上記修了者のほかに、学位規程第14条第1項のただし書きによる学位取得者が1人います。

2017年度　専門職学位課程修了者数

法務研究科	法務専攻	8

専修人の新しい本

「企業社会」の形成・成熟・変容

高橋祐吉著

日本の民間大企業における労使関係が、企業が圧倒的に優位に立つ労使関係、あるいは、労働者と労働組合が企業に包摂、統合された労使関係であることは、よく知られている。

本書では、こうした労使関係を基盤にして成立した日本社会を「企業社会」と位置付けながら、それがどのような歴史的経緯をたどって1980年代に成立したのか、そしてまた90年代における成熟によって、わが国の働き方や雇用、賃金、労使関係がどのような特徴を帯びるに至ったのか、さらには、その後の新自由主義の改革が、「企業社会」をどのように変容させたのかを明らかにしようとしている。

昨今「働き方改革」なるものが大きな論議を呼んでいるが、その「深層」と「真相」を知るうえでも興味深い一冊である。（専修大学出版局・本体3400円＋税）

著者（たかはし・ゆうきち）＝経済学部教授、労働経済論。

政治の約束

高橋勇夫訳

政治思想家ハンナ・アレント自身による幻の「政治入門」の改訂文庫版。

アレントの「政治」は、おのおのの人間が個有の差異性を保持しながら、言い換えるなら多数の観点から、同じく個有の差異性を保持する他者たちと自由に意見を交わし合い、共通の「世界」を現出させることである。

しかしソクラテス刑死を決定的な分かれ目にして、政治は、プラトン的真理概念によって抑圧され続け、全体主義の「恐怖による同一化」を経て、いまや社会の「必要」に応える手段として自らを矮小化させている。

人間の絶滅可能性がすぐそばにある時代にあって、アレントの政治が約束するのは「自由」と「世界」の復興である。世界を気遣い、人間の複数性による終わりなき「活動」と新しい始まりを説くアレント渾身の書。（ちくま学芸文庫・本体1400円＋税）

訳者（たかはし・いさお）＝法学部教授、英語。